

## 2019 年度 学校関係者評価報告書

学校法人湘中央学園  
浦添看護学校  
学校関係者評価委員会

学校法人湘中央学園浦添看護学校学校関係者評価委員会は「2019 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて保護者、卒業生、業界関係者評価を実施しましたので、下記の通り報告します。

### 1. 教育理念・目的・育成人材像

○学校法人湘中央学園の建学の精神に則り、看護師養成所としての教育理念・教育目的・目標を設定している。キーワードである「愛」「智」「技」は看護職者が備えるべき要素を端的に表しており、教職員は学生指導や教育実践活動に活かされている。

特に今後は、超高齢社会であることに鑑み、地域包括ケアシステムの中で活用できる人材育成ということを前面に出した教育活動も必要かと思う。さらに、昨年も提示したが、AI 時代を迎える中で臨床現場が求める人材も変化してくると思われることから、学園のスクールモットーである「愛」を具体化した人材育成も重要になる。来るカリキュラム改正に明確に打ち出せることを期待する。

### 2. 学校運営

○学校経営に関しては、法人本部から示された「長期目標」「中期目標」「短期目標」を踏まえ、看護学校としての事業計画を策定し、職員会議及び教務会等で共通理解し、教職員各々の業務目標に活かされている。教職員が一体となって組織された 9 つの委員会活動は年々充実しつつあるように思う。

昨今、様々な分野における ICT 化は目覚ましい勢いで進んでおり、それは看護師教育の現場でも避けられない状況になっていると思う。事務部門、さらに教育実践部分への導入を組織的に検討していくことが肝要かと考える。ICT の活用がスムーズに行うことができたなら、事務処理、教育実践がより効率的に実施でき、新たな学校運営に繋がると考える。

### 3. 教育活動

○学内委員会として教育委員会が設置され、毎年度のカリキュラムの振り返りと次年度に向けての検討が行われている。今年度は 2022 年のカリキュラム改正に向けての教育活動がなされている。

学校として様々な教育内容を正課として、あるいは正課外にプログラムとして取り入れ、

評価を行い、教育理念や教育目的・目標の達成に努力している。

「教育理念・目的目標・育成人材像」でも述べたが、超高齢社会に対応できる看護職者の育成に力を入れることが望まれる。加えて、ICTを活用した教育実践活動へのトライを充実させ、それに関連したカリキュラムの構築を期待する。

看護教育は社会の変化に応じて常に深化させていくことが必要であることを踏まえると、現に行っている授業の学生による評価は必要不可欠である。臨地実習や専門領域の看護学分野では十分になされているが、専門領域以外での学生による授業評価は、非常勤講師との調整に困難性があることは理解できるが、可能な方法を検討し、実施に繋げていただきたい。

#### 4. 学修成果

○進学、就職については、例年通り、学生からの申し出により随時キャリア支援委員会で対応ができています。就職内定状況も例年通りほぼ全学生が3月末時点で就職先を決めている。

助産学科への進学及び4年制大学への編入も継続的にあり、学生のキャリア支援も適宜行われている。国家試験の合格率は常に全国平均を上回っている。それは、定員120名という膨大な数の学生へのかかわりという点で教員たちの関りの濃密さがうかがえる。称賛に価すると思う。今年度から後援会の支援を受け、一部業者の参入も行われている由今後もそのかかわり方を継続してほしい。

卒後のキャリア形成の一環で実施している「浦看カフェ」は毎回、趣向を凝らしており、卒業生からの評価も好意的である。卒業生にとって年2回実施することは勤務の都合でどちらか一方に参加することが可能となり効果的であると思う。

最近、とみに増えてきているのが学生のメンタルサポートである。当校は、それに対する対応としてカウンセラーを二人制にしたのは、課題を抱えた学生対応の柔軟性が確保できたのではないかと考える。

#### 5. 学生支援・学生指導

○学生の経済的支援体制は、事務部に担当者が置かれ随時、適切に対応がなされている。又、後援会からの支援もあるが、今回、同窓会からも支援の提案が示されたことから、連携をとりながら実施に向けて取り組んでもらいたい。

学生の健康管理、課外活動、生活環境への支援についても学内委員会活動の一環でなされている。キャリア教育や職業教育については、看護師養成所であることを踏まえ、一部の教科目の内容として行ったり、特別講義等で実施されているが、看護学への学生の学習意欲を高めるためにもより一層の充実したキャリア教育・職業教育がカリキュラムの中に位置づけられて実施されることを期待する。

## 6. 教育環境・法令遵守

○教育環境については、ハード面、ソフト面共に年々充実してきている。近年、防災に対する意識が高まっていく中で学内に防災対策検討委員会が設置されたことは評価する。

○法令遵守に関しては、これまでと同様、専修学校としては「専修学校設置基準」、看護師養成所としては「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」を踏まえている。

## 7. 学生受け入れ募集・社会貢献・地域貢献・特別活動等

○学生の受け入れ募集に関することで現在行っているオープンキャンパス、県内高校へのパンフレット配布及び進路指導担当教諭への情報提供、学校のホームページを通しての活動は継続していただきたい。しかし、看護学校の魅力を発信する新たな取り組みも検討する必要があると思う。体験型の学校案内は、時間・対応する人(教職員)に限度があると思うが、看護のイメージ化を図るには効果的だと考える。

○社会貢献・地域貢献としてのボランティア活動の推進は、学生にとって正課で学ぶ以上の学びがあると思う。地域からのボランティア募集が年々増えてきている中で、対応が十分にできていない場合があるとのこと。地域を視野に教育実践を考えるのであれば、地域貢献・社会貢献は確実な実施に向けての検討が必要であろう。

## 8. 国際交流

○看護師養成所における留学生の受け入れは、法的な縛りがあり、現状は厳しいと思われる。しかし、国が推し進めている外国人の異動に関する政策は、医療の現場にもあることから、視点を変えた取り組みが必要と思われる。

現在、学校で取り組んでいる、近隣の国際交流機関を活用しての教育活動はそれに価値があると思われることから今後も継続していただきたい。

以上